講師　大西　泰久氏

○シンポジウム

〝関　寛斎の開拓精神〟

青年期・　銚子市　戸石　四郎氏

徳島時代・徳島市　泉　康弘氏

高齢期・　札幌市　本多　貢氏

○語り『みゝずのたわごと』

ほうき座　窪田　稔氏

○交流会・寛斎さんをしのんで

第二日（十六日）

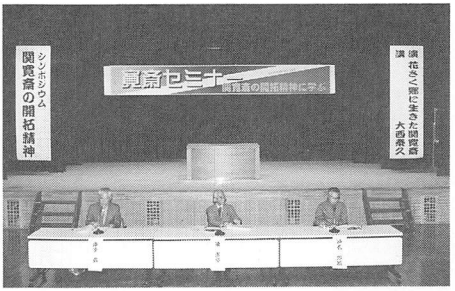
歴史ウォーク・芦花と寛翁の語り歩いた道・ニケウルルバクシュナイ

見学会（関　寛斎資料館）

特別展示・司馬遼太郎in陸別

関　餘作資料展・ロシヤでの医療活動

第一日のシンポジウムは二百名を越す参加者で非常に盛会であり、各講師の方々のお人柄がそのままに反映した良い発表で、顕彰会の斎藤省三氏をはじめとする町の人々の運営も見事であった。シンポの和やかな雰囲気は、夜の交流会にそのまま持ちこまれた。心から寛斎に魅かれている多くの人々との、酒を酌み交しながらの意見の交換は、平生文献史料にのみ目を向けがちな筆者にとって得難い体験であり、貴重な刺激剤になった。



写真左から本多貢、泉康弘、戸石四郎各氏

三千ヘクタールと伝えられる旧関牧場の跡を歩きつつ眺めた大平原は、天も地も美しく豊かで雄大であり、寛斎の志を垣間見る思いがした。この町の人々の、寛斎を父の如く慕い「父を大切にすることは子として当然のこと」という健康な精神が、陸別町関寛翁顕彰会主催によるこのセミナーを成功に導く原動力となったことはまちがいない。

（芝木　秀哉）

ウイリアム・ウイリス文書（マイクロフィルム）の里帰り

ウイリス文書（原文書）は萩原延寿氏から鹿児島県歴史資料センター黎明館へ寄贈され、複製が横浜開港資料館と順天堂大学医史学研究室に好意により寄贈された。萩原延寿氏がすでに『遠い崖―アーネスト・サトウ日記抄』（朝日新聞夕刊に連載されたものも含む）で詳細な研究を発表されているので、ご存知の方も多いと思う。

総数約六四〇点（但しマイクロフィルム六本）にのぼるウイリス文書は、約二〇年前にイギリスのフランシス・アームスト

ロング＝ウイリス（Frances Armstrong-willis）夫人から萩原氏に託されたものである。その内容を見ると、ウイリスから開業医である長兄ジョージ（George）やその夫人ファニー（Fanny）にあてた書簡がその大半を占め、その他京都や越後、会津、鹿児島などでの治療記録、契約書、意見書などが含まれている。

＊久志本欣也氏のご希望により左記の複製本を作成し、順天堂大学医史学研究室に保存された。

管蠡草灸診抄　家傳退譽聚験方　全
五急活法　一流大事法
煆煉要法　管蠡備急方　巻之上・中・下

（順天堂大学医史学研究室）

第38回医学史研究会 日本医史学会関西支部（一九九八年秋季）合同総会

と　き　一九九八年十一月十四日～十五日
ところ　大阪市立大学医学部・中講義室
（大阪市阿部野区旭町二丁目）

〔第一日〕（午後一時より）

I・要望課題：日本占領時の医療推移

シンポジウム：

1・総論：占領時の生活と健康　水野　洋（勤労者健康サービスセンター）

2・占領時の医学教育改革（医学校の場合）　神谷　昭典（瀬戸市）

3・占領時の労働衛生（GHQ労働政策に関連して）　野村　茂（労働科学研）

4・ABCCの歴史　上野　陽里（京大名誉教授）

5・占領時の看護制度　長門谷洋治（豊中市）

6・占領時の医療改革　杉山　章子（青森大学）

〔第二日〕（午前九時半より）

I・一般演題①

1・ロイアル　コレジ　オブ　フィジシアンズ再訪
―一五一八～一九九八　栗本　宗治（大阪医大）

2・香港、マカオの医史跡　石田　純郎（新見女子短大）

3・富山県内にみられるヒポクラテス画幅とその賛について　正橋　剛二（富山市）

4・『言経卿記』中の医療、特に本願寺関係について　中山　沃（西宮市）

II・ミニ特別講演1

幕末在郷医の診療記録から―医師田中寛治郎の場合　森田　康夫（樟蔭東女子短大）

ミニ特別講演2

人体内景図における脂膏、脂腹、脂膜と膵臓　高島　文一（京都市）

III・見学　（市大医・展示室：あべのメディックス6階〝田中家弥生園の医学〟）